

初志貫徹

浪江町長 馬場 有

梅のつぼみがほころぶ季節となり、春の訪れが待ち遠しく感じます。

今年「本格復興期」と位置付けた5年間の初年度にあたり、町は、新たなスタートを切りました。今後は、これまで町再生のために検討を進めてきた各種計画の実現に着手し、ビジョンではなく具現化させ、ひとつひとつ的確に判断しながら事業の完遂に努めます。

目標としている避難指示解除（帰還困難区域を除く）については、先月末から今月上旬にかけて県内外の10か所で住民懇談会を開催しています。国から避難指示解除に向けた考え方等について説明していただいた後、町からは、策定委員会がとりまとめている「浪江町復興計画【第二次】（案）」の概要を説明し、意見交換会で皆さまから浪江町に対する思いや考えを聞かせていただいています。

解除の時期については、国から案が提示されていますが、最終的には、住民懇談会での皆さまのご意見のほか、「除染検証委員会」、「有識者検証委員会」による検証結果の報告などを総合して判断したいと考えています。

解除時期に関わらず、4月には、二本松事務所・各出張所に一部機能のみを残し、震災後6年ぶりに役場機能を本庁舎へ戻します。避難指示解除後の町内での生活に必要な町民ニーズを現場で把握するためです。復興している町の姿を皆さんに感じてもらえるよう業務を進めるとともに、十日市や出初式などの

行事を町内で行い、帰町している町民の方だけでなく多くの方が集まれる機会を作っていきたいと考えています。

また、避難先での生活を続ける方については、交流イベントなどの開催を支援したり、仮設等から復興公営住宅等に移り孤立化してしまうことを防ぐため、戸別訪問を強化するなどの対策を講じる必要があるとの認識から、事業について検討していきます。

先日、浪江の若者4名との座談会を行いました。帰る・帰らないはそれぞれでしたが、浪江町への愛着心や町存続への強い思いは共通していて、自ら町の力になりたいという思いを抱いていることがとても嬉しく、これからの私の励みになると感じました。

避難生活が長期化する中で、町民の皆さんには、帰町する・避難先での生活を続ける・帰町への判断を迷っている、などさまざまなご意見があることと思います。町は、それぞれの決断を尊重した支援策に継続して取り組み、町民だけでなく支援いただいている方との絆を大切にしながら、「百年の大計」を示す絵姿を具体的に描いていきます。

その実現が容易ではないことは重々承知ですが、今が試練の時だと腹を据え、職員とともに初志貫徹、強い信念をもってまちづくりに取り組んでまいります。

まだまだ厳しい寒さが続きますが、くれぐれもご自愛ください。